ホワイトキューブの復旧について

菊地　忠久

【質問】ホワイトキューブは3月の地震で壊滅的な被害を受けたが、国の財政的な支援の見込みを伺う。

【答弁】【市長】今回の地震は激甚災害の指定に至らなかった。

積極的に国、地元選出の国会議員に被害の状況を伝え、財政支援をお願いした結果、文部科学省において、社会教育施設の復旧に対する補助事業を準備いただいている。

今後、詳細な内容が示されると思われる。

【質問】パイプオルガンの使用状況について伺う。

【答弁】【まちづくり推進課長】平成30年度は自主事業、貸館事業合わせて7回、同様に令和元年度は9回、令和2年度は2回、令和3年度は2回の使用実績があった。

【質問】コンサートホールにおける、講演会や会議等での使用状況について伺う。

【答弁】【まちづくり推進課長】平成30年度は49回、令和元年度は44回、令和2年度は25回、令和3年度は25回の使用実績があった。

【質問】コンサートホールは話し言葉が聞きづらいとの感想を多く聞くが、所見を伺う。

【答弁】【市長】残響音が長く、音の響きは素晴らしいものである。しかし、講演会等における発言者の声がホール内で反響してしまい、聞き取りにくいデメリットがあるのも確かである。

講演会等では、吸音カーテンを下げることで、声の反響を少なくする対策を取ってきた。

客席側にスピーカーを向けたり、別途設置するなどの工夫も実施し、柔軟に対応してきた。

【質問】復旧は原状回復が基本とはいえ、ホールの残響時間や、パイプオルガンの設置にこだわって復旧する必要はないと考えるが、所見を伺う。

【答弁】【市長】ホワイトキューブコンサートホールの大きな特徴として、残響時間の長さがある。その特性を生かしたパイプオルガンの音色と音の響きは、これまで多くの市民の癒やしとなってきた。

現時点では、地震前と同様の復旧、パイプオルガンについても現状での復旧を考えている。

【その他の質問】

◎少子化について

本市の教育について　他

佐藤　秀行

【質問】休日の部活動地域移行について、土日を含めて部活動の指導をしたいという先生方もいる。部活動の果たす役割は、教師、生徒にとって大変重要なものである。顧問の先生と信頼関係を構築できる、生徒の心に寄り添って指導のできる人材の確保が大切である。見解を伺う。

【答弁】【教育長】部活動地域移行は、働き方改革を推進し、学校教育の質的向上につながると捉える。部活動の学校教育に果たす役割は極めて大きい。顧問と指導者の信頼関係は大変重要だと認識している。現場の声などを聞きながら、この問題に向き合っていきたい。

【質問】児童にとって遊具は学校生活を送る上で必要であると考える。遊具は児童の挑戦と経験の場所でもあり、成長にもつながるものである。撤去される予定の遊具等に代わる、今後の新たな遊具の設置等について伺う。

【答弁】【教育長】遊具には一定の教育効果があると理解している。撤去後においては、学校における遊具の状況などを勘案し、適切な遊具の配置を検討していく。

◎みやぎ蔵王白石スキー場について

【質問】第2リフトは、平成11年に設置されてから23年が経過している。架け替えについてどのように考えているか伺う。

【答弁】【市長】平成21年度に大規模な整備、修繕を行い、平成26年度にはリフトロープの交換や座席の交換等を行なっている。定期的に点検を行い、可能な限り修繕で対応していきたい。

【質問】県道254号南蔵王白石線は、スキー場のバス、市民バス、スクールバスが日々運行している重要な道路である。大型トラックの運行なども多く、道路が至るところ傷んでおり、補修・修繕が必要と考えるが、見解を伺う。

【答弁】【市長】観光、物流および災害時の代替道路としても非常に大きな役割を担っており、利用者等の安全確保の観点からも重要であると認識している。

再度、道路管理者である大河原土木事務所に対し、補修要望を行なっていく。